

平成28年度 学校評価報告書(総表)

平成29年 6月30日

1 学校の概要			
学校名	附属桐が丘特別支援学校	校長名	宇野 彰
幼児・児童・生徒数	120	学級数	31
2 教育目標等			
① 学校教育目標	肢体不自由及びその他の障害を併せ有する児童生徒に対して、個々の個性と障害の状態に応じた教育を行い、豊かな人間性を持ち、積極的に社会に参加し、自立を目指す人間の育成に努める。		
② 学校経営方針	(1) 附属学校として筑波大学の教育研究と連携協働 (2) 先導的で高度な教育研究の展開と成果の発信 (3) 安心・安全な学校づくり (4) 附属学校の使命の自覚と教職員としての誇り (5) 公開性・透明性の高い学校経営 (6) 人事の流動性を高めた教職員組織の活性化 (7) 学校機能及び学校運営の効率化		
③ 重点目標	① 授業の充実 L字型構造を踏まえた授業準備と評価活動による授業改善に努め、児童生徒の学力の定着を図る。 ② ステークホルダーとの信頼関係の構築 保護者の理解と信頼が得られる丁寧な説明と対応を心がける。 ③ 先導的教育研究の成果発信 文部科学省事業として取り組んでいる研究の成果をわかりやすくまとめ、全国に発信する。 ④ 肢体不自由教育の専門性の維持・向上 ケース会運営や個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成手続き・表記内容の見直しを図ると共に、自立活動研修を計画的に進め、適切な自立活動をマネジメントできる体制を構築する。 ⑤ 本校校舎を中心とする施設設備の整備・補強 児童生徒の学校生活に支障がある施設設備の整備・補強を進める		
④ 前年度の成果と課題	<p>【平成27年度の重点目標と成果】</p> <p>① 授業の充実:L字型構造を踏まえた授業研究を計画的に実施できた。個別の指導計画も、授業研究の機会を通して確認できた。保護者による学校評価のポイントが増加した。授業に対する教員の自己評価のポイントも増加した。</p> <p>② ステークホルダーへの説明:全校保護者会、学部懇談会、PTA実行委員会、学校評議員会において学校の取り組みを適宜紹介することができた。映像資料の提示も積極的に行った。心身障害児総合医療療育センターに入所する児童生徒の受け入れについて調整を図り、関係機関への連絡も漏れなく行った。同センターとの合同避難訓練を実施することができた。</p> <p>③ 先導的教育の成果発信:社会科、理科を対象とする研究を加え、研究全体の充実を図った。重複障害児を対象とする研究も新たに加えた。文部科学省事業として取り組んだ研究の成果報告会を開催し、研究成果報告書も刊行できた。全国肢体不自由教育研究協議会、日本特殊教育学会で、研究成果を積極的に発表した。複数の研究協力校と連携研究に取り組んだ。</p> <p>④ 自立活動の指導体制の維持・改善:校内研修を計画的に実施した。自立活動実践セミナーの参加者数を増やすことができた。</p> <p>⑤ 本校校舎改築の準備:学級編制の再編計画(骨子案)を作成した。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内における「育てたい力」の明確化と共有。 ○他校との研究ネットワークの維持・拡大。 ○教育課程の整理・再編(カリキュラム・マネジメント)。 ○国際交流の拡充(特に台湾交流)。 ○心身障害児総合医療療育センターに入所する児童生徒の受け入れ。 ○本校校舎の施設設備の整備・補強。 ○本校校舎改築及び学級編制の再編。 		

3 重点目標達成についての総括的評価

- ①授業の充実:L字型構造を踏まえた授業研究を計画的に実施し、個別の指導計画の確認もその都度実施できた。保護者による学校評価で教員の指導を評価するポイントが上昇した。教員による自己評価のポイントも上昇した。
- ②ステークホルダーへの説明:全校保護者会、学部懇談会、PTA実行委員会、学校評議員会における学校の取組紹介のほか、保護者向け研究説明会を開催することができた。合理的配慮の表記内容の確認及び保護者との確認手続きの明確化が図れた。保護者による学校評価のポイントが上昇した。心身障害児総合医療療育センターに入所する児童生徒の受け入れを調整するとともに、その説明を丁寧に行い、保護者や前籍校の理解を得るよう対応した。同センターとの合同避難訓練を実施することができた。
- ③先導的教育の成果発信:保健体育、外国語を対象とする研究を新たに加えることができた。重度・重複障害児を対象とする研究も充実させ、対外発表も行うことができた。文部科学省事業として取り組んだ研究の成果報告会を開催した。全国肢体不自由教育研究協議会等での研究発表を積極的に行った。
- ④自立活動の指導体制の維持・改善:校内研修を計画的に実施することができた。自立活動実践セミナーの参加者数を増やすことができた。
- ⑤本校校舎改築の準備:本校校舎改築の予算を獲得することができた。また、厚生労働省の予算においても施設併設学級校舎と療育センター多目的棟をつなぐ渡り廊下の整備事業費がついた。

4 来年度の学校課題

- 「育てたい力」の共有と教育課程の整理・再編。
- 他校との連携研究の拡充。
- 国際交流の充実(交流活動の見直し)。
- 心身障害児総合医療療育センターに入所する児童生徒受入に係る東京都との交渉。
- 本校校舎改築に係る対応(工事期間中の移行計画、備品整理等)。
- 学級編制の検討。
- 筑波大学人工知能研究室との連携。

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- ①各学部段階における「育てたい力」を明確にすると共に、学部間の連続性・一貫性を確認する。
- ②複数の学校と研究ネットワークを構築し、情報発信と意見回収に努め、研究成果の検証と補強に取り組む。
- ③児童生徒の体験的な活動を重視し、国際交流活動の内容について見直しを図る。
- ④施設併設学級の定員超過問題の解決を図るため、筑波大学や療育センターと連携し、東京都教育委員会に対して施設併設学級在籍児童生徒の一部受入を交渉する。
- ⑤将来の学校運営及び教育研究活動を想定し、本校の学級編制の改組案を作成する。
- ⑥筑波大学の人工知能研究室と連携し、姿勢保持誘発装置など最新テクノロジーを活用した未来支援器具の共同開発に取り組む。